

標準仕様書

施工編

施工編

目 次

1.	作業工程	1
	1) 下地処理工(洗浄工)	1
	2) 調査工	4
	3) 目地及び、ひび割れ補修工	6
	4) 表面被覆工	12
	5) 材料検収	16
	6) 圧縮強度試験	17
2.	施工上の注意点	18
	1) ドライアウトに関する事項	18
	2) 白華現象に関する事項	18
3.	施工に関する注意事項	20
	1) クラック処理	20
4.	作業工程における注意事項	21
	1) 前処理工（漏水部処理）	21
	2) 前処理工（欠落部処理）	21
	3) 前処理工（仮設配管）	21
	4) 吸水調整剤塗布	22
	5) H I Gプライマー塗布	22
	6) 目地及びクラック部、バックアップ材等取付け	23
	7) ポリマーセメントモルタル	23
	8) クラック部シーリング材充填	24
	9) H I Gトップコート	25
	10) 養生工	25
	11) 目地部シーリング材充填	25
5.	スーパーハイグレード工法（S H I G）標準断面図	26
	1) 一般部の補修・補強	26
	2) 床板下面の補修・補強	27
	(1) 施工事例（補強）	28
	3) 塩害処理	29
	(1) 施工事例（犠牲陽極処理）	30

1. 作業工程

1) 下地処理工(洗浄工)



測点 No. No.〇〇

工 種 下地処理工

現況写真



測点 No. No.〇〇

工 種 下地処理工

完了写真



測点 No. No.〇〇

工 種 下地処理工

作業状況写真

※写真撮影箇所及び撮影方向は
同一箇所を同一方向から撮影する。



測点 No. No.〇〇

工 種 下地処理工

飛散防止養生状況



測点 No. No.〇〇

工 種 下地処理工

使用機材 洗浄圧確認
30Mpa



測点 No. No.〇〇

工 種 下地処理工

使用機材 洗浄圧確認
30Mpa



測点 No. No.〇〇

工 種 下地処理工

出来形確認



高圧洗浄車 35Mpa

給水車 2～4 t

ポリタンク 1m³

2) 引張試験



測点 No. No.〇〇

工 種 下地処理工

高圧洗浄完了後

引張強度試験

アタッチメント取付

R側壁 3箇所



測点 No. No.〇〇

工 種 下地処理工

高圧洗浄完了後

引張強度試験

試験後状況確認



測点 No. No.〇〇

工 種 下地処理工

高圧洗浄完了後

引張強度試験

試験結果記載

※アタッチメント 40mm * 40mm

側壁（左右）及び底版各一箇所で3箇所の試験を実施する。

アタッチメントの取付箇所は十分乾燥状態を確認の上設置する。

引張試験は建研式引張試験機を使用する。

※試験結果が管理基準以下の場合は、監督員と協議する。

※試験箇所の位置及び試験箇所数は監督員と協議する。

2) 調査工



測点 No. No.〇〇

工 種 調査工

凹凸調査状況

側壁部 平均深さ 3.5mm



測点 No. No.〇〇

工 種 調査工

凹凸調査状況

底版部 平均深さ 6.5mm



測点 No. No.〇〇
工 種 調査工

調査状況写真



測点 No. No.〇〇
工 種 調査工

クラック

R 1 L=500mm



測点 No. No.〇〇
工 種 調査工

目地

M1 W=15mm

※調査工において、クラック及び目地の位置及び延長等は別紙管理シートに記載する。

調査工完了後調査図面・数量表・管理シートをまとめる。

※断面欠損部（縦＊横＊深さ）及び湧水箇所も明記する。

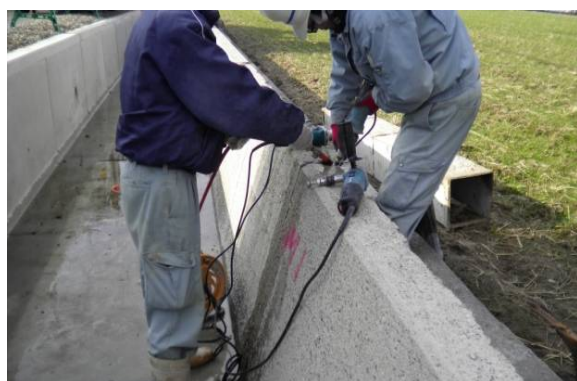
3) 目地及び、ひび割れ補修工



測点 No. No.〇〇
工 種 目地補修工

目地部マーキング

M1 L=900mm



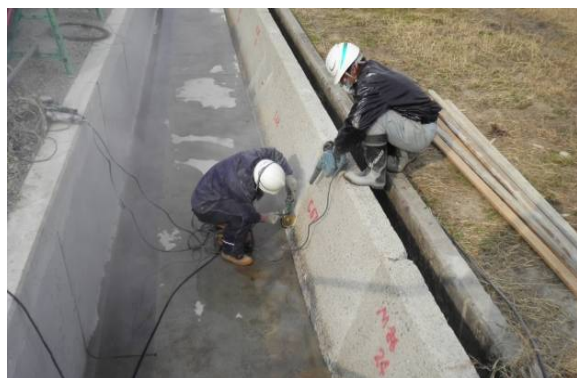
測点 No. No.〇〇
工 種 目地補修工

Tカット

M1 溝切り

U型又はUカット

※必要に応じて溝切りをする。



測点 No. No.〇〇
工 種 目地補修工

Tカット

施工状況写真

M1



測点 No. No.〇〇
工 種 目地補修工

Tカット

施工状況写真

※必要に応じて微粉集塵機を使用。完了後
次工程のプライマー工の前に水洗いをする。



測点 No. No.〇〇
工 種 目地補修工

Tカット
バックアップ材取付



測点 No. No.〇〇
工 種 目地補修工

Tカット
出来形測定

M1 L=900mm



測点 No. No.〇〇
工 種 目地補修工

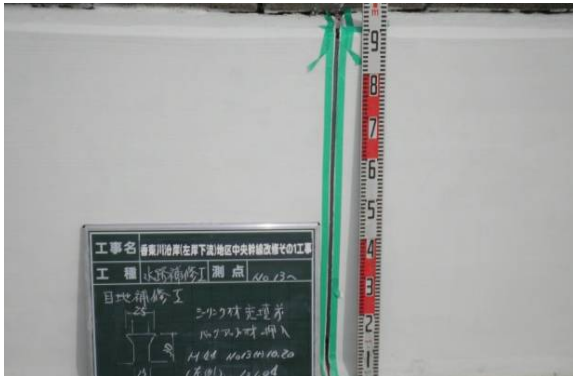
出来形
M1
深さ D=25mm
幅 W=15mm

※Tカット完了後、バックアップ材を取付けること。

Tカット完了後のバックアップ材とモルタル塗時のバックアップ材を兼用してはならない。

Tカット完了後のバックアップ材は目地部及び貫通ひび割れ部のみ取付ける。

Tカット部の充填深さが20mm以上の場合は、充填工を2回に分け1回目の充填はTカット完了後に充填し、2回目は左官工完了後とする。



測点 No. No.〇〇
工 種 目地補修工

マスキングテープ貼り



測点 No. No.〇〇
工 種 目地補修工

充填深さ確認

M1 D=20mm



測点 No. No.〇〇
工 種 目地補修工

バックアップ材取付状況



測点 No. No.〇〇
工 種 目地補修工

プライマー塗布状況



測点 No. No.〇〇
工 種 目地補修工

シーリング材充填状況



測点 No. No.〇〇
工 種 目地補修工

出来形測定



測点 No. No.〇〇
工 種 ひび割れ補修工

使用機材

T型ビット φ15 〇〇本
設計必要数量 〇〇本



使用機材

U型(角型)ビット 〇〇枚
φ90 (又は105)
設計必要数量 〇〇枚



使用機材

サンダー



使用機材

ハンドグラインダー



使用材料

充填剤

※ シリコン系〇〇

320 g /本 〇〇本

設計必要数量 〇〇本

専用プライマー

1 k g /缶 〇〇缶

設計必要数量 〇〇缶



使用材料

バックアップ材

ウレタン系 φ 20 〇〇m

設計必要数量 〇〇m

4) 表面被覆工



測点 No. No.〇〇

工 種 表面被覆工

プライマー塗布状況



測点 No. No.〇〇

工 種 表面被覆工

HIGモルタル塗布状況

$t = 6.0\text{mm}$



測点 No. No.〇〇

工 種 表面被覆工

混練状況写真

別途 ハイグレード工法（HIG）基準編 表面被覆工参照。

計量写真

計量カップ 清水 2.9ℓ

HIGモルタル 1袋 20kg

攪拌時間 ストップウォッチ測定



測点 No. No.〇〇

工 種 表面被覆工

円柱供試体作成

$\Phi 50\text{mm} \times 100\text{mm}$ 6個

※曲げ試験が必要な場合

角柱供試体作成

3連モールド $40\text{mm} \times 40\text{mm} \times 160\text{mm}$



測点 No. No.〇〇

工 種 表面被覆工

厚さ確認

※モルタル塗後乾燥前に確認する。

塗厚確認箇所数は管理基準による。



測点 No. No.〇〇

工 種 表面被覆工

養生工



測点 No. No.〇〇

工 種 表面被覆工

出来形測定



測点 No. No.〇〇
工 種 表面被覆工

付着強度試験

側壁部

アタッチメント取付状況

40*40 3箇所



測点 No. No.〇〇
工 種 表面被覆工

付着強度試験

側壁部

28日平均付着強度 1.5N/mm²以上



使用機材

建研式付着強度試験機

※自主検査

7日付着強度試験 0.7N/mm²以上



測点 No. No.〇〇
工 種 目地補修工

使用機材

ダマカットミキサー



攪拌機

ペール缶



デジタルノギス

ストップウォッチ



計量器

ポリタンク

5) 材料検収



工 種 材料検収

HIGプライマー

HIGプライマーモルタル

HIGトップコート

設計数量

HIGプライマー	18kg/缶	5缶
HIGプライマーモルタル	20kg/袋	100袋
HIGトップコート	18kg/缶	5缶

4.2缶

99.4袋

4.1缶



工 種 材料検収

空袋空缶検収

HIGプライマー

HIGプライマーモルタル

HIGトップコート

HIGプライマー	18kg/缶	5缶
HIGプライマーモルタル	20kg/袋	110袋
HIGトップコート	18kg/缶	5缶

4.2缶

99.4袋

4.1缶

6) 圧縮強度試験



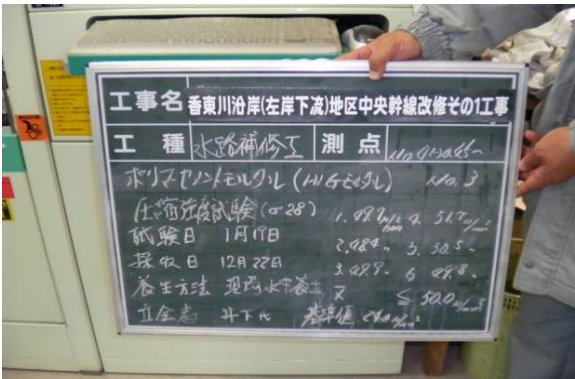
測点 No. No.〇〇
工 種 表面被覆工

圧縮強度試験
 $\phi 50 * L=100$
 $\delta 7$ 3本
 $\delta 28$ 3本



測点 No. No.〇〇
工 種 表面被覆工

室内試験



測点 No. No.〇〇
工 種 表面被覆工

圧縮強度試験
試験結果
平均圧縮強度 $30\text{N}/\text{mm}^2$ 以上

2. 施工上の注意点

水路補修に関しては、施工時期及び周辺環境に応じた前処理等必要検討事項に留意する必要がある。

1) ドライアウトに関する事項

コンクリート下地にセメントモルタルを塗る場合、下地が乾燥しているとコンクリートに水分をとられて水和反応が阻害され、硬化不良や接着不良を起こしやすくなる。このことをドライアウト現象ともいう。下地の吸水だけでなく、塗りつけた後に直射日光や強風によってもドライアウトは起こりえる。

塗りつけ後のドライアウトはシート養生や散水によってこれを防ぐことができる。セメントモルタルを塗る前に水湿しを行うか、吸水調整剤を塗布する。吸水調整剤は3～10倍液に薄めて使用すれば、乾燥膜は不連続なネットのような膜となりコンクリートとセメントモルタル界面は通気した状態となり、ドライアウトを起こさず、高い接着力が得られる。しかし水に薄めずに原液のまま使用すると、コンクリートとモルタルが鏡面状の連続したフィルを作り、かえって浮きを招く結果となるのでメーカーの仕様書を厳守すること。

吸水調整剤の塗布は、水路補修の場合高圧洗浄完了後下塗りの前処理工程で塗布する。

2) 白華現象に関する事項

白華現象は、石材等を湿式工法で施工する際に、稀に起こる、炭酸カルシウムが石材表面に白く残留する現象です。水とセメントにより水酸化カルシウムが発生し、更に水に溶解した水酸化カルシウムが乾燥行程中のコンクリート表面に移行し、蒸発し残留した水酸化カルシウムが空気中の炭酸ガスと反応して、炭酸カルシウムを生成します。

◎ 施工上の白華現象（エフロレッセンス）防止対策について

1. モルタルにはセメント混和用吸水防止剤を使用する。
2. 目地切れを起こさないために、目地の充填を確実に行う。
3. 更に防止対策を効果的にするためには、石材の表裏を確認し、裏面に発水処理を施す。
4. ポリマーセメントモルタルの混練時に白華防止剤を添加する。

（20kg に対し 50g 程度の添加）

◎ エフロレッセンスが発生した際の対策について

1. 炭酸カルシウム（白華）が凝固していく前に（発生後早い段階で）十分に水洗いをして排出する。
2. 結晶が成長した際は、カッター等で石材を傷付けないように注意して削り落とす。
3. 家庭用トイレ塩素系洗剤を 5 倍程度に希釈して塗布し、水洗いする、その際には、石の表面をこすらない。設備等の金属に付着させない、水で十分洗い流し、洗剤の成分を残留させない。

（薬品を使用する際は添付の注意書に従って、使用する前に目立たない個所で実験されることをおすすめします）

※ 白華現象は施工直後から一定期間内に最も起こりやすく、その後は次第に減っていきます。

以上の事項に留意する事により、発生防止もしくは最小限におさえることができます。

3. 施工に関する注意事項

1) クラック処理



クラック処理工

基本的には挙動性が有る場合は
すべて処理が必要。

「挙動性のない場合」

ポリマーセメントモルタル系の場合、
施工完了後、前クラック部に同様の
ひび割れが入る可能性は大である。

※水路補修時のクラックに関しては、様々な考え方があり規定化するには若干の問題がある。

基本的に水路構造物は無筋構造物であることから、クラックが直接性能及び機能に対する影響度に関して、データ不足と言える観点から、当組合としては、クラック幅1.0mm以上の場合はクラック処理を施すこととする。

但し、天端を含み壁面までのクラック長さが40cm以上の場合はクラック処理とし、40cm未満に関しては、Uカットのみの処理を行い、中塗りで塗りこむこととする。一般的に既存水路にクラックが発生している場合、ポリマーセメントモルタル系の補修工法の場合、早期に同一箇所ではひび割れが発生するケースが多い。

4. 作業工程における注意事項

1) 前処理工（漏水部処理）



前処理工（漏水部）

漏水部は状況により完全止水することで還って他部に影響を及ぼすことがあることから、ウィープホール等の処理を検討する。

2) 前処理工（欠落部処理）



前処理工（欠落部処理）

欠落部は底部との境部に多く発生しており、局部的である。

当該部は吹き上げ水等もある箇所が多く、通常の処理よりよりも水和反応により硬化する早強性の材料で処理することが多い。

各工法に使用する材料との相性等は事前に確認をしておくこと。

3) 前処理工（仮設配管）



前処理工（仮設配管）

住宅地等の家庭排水の処理の際に仮設配管を施す。

仮設配管の設置を施す際には延長、配管径等の数量を拾う必要がある。

4) 吸水調整剤塗布

施工する時期及び環境・気候条件等を十分チェックし、必要に応じて吸水調整剤の塗布を検討する必要がある。

水路補修の場合は、10月～3月と厳しい環境下が想定されるので、基本的には作業工程に含むことが懸命と言える。

5) H I Gプライマー塗布



H I Gプライマー塗布

水路の施工においては、特に風と気候の変化による弊害として、ドライアウトと白華現象が考えられるため、特に主剤がセメント系の場合は注意が必要である。特に、背面水が浸透するとか、あるいは深夜の冷え

込み、突然の雨等により影響を受けるため、白華防止剤等の添加により抑制することを考慮する。

養生



養生

品質管理を一定に保つためにも日々の養生が重要となる。

特に、温度変化等が懸念される場合は、施工時間をPM3：00までとし、初期乾燥を確認の上、養生を施す。

※写真ではビニル製品使用しているが水滴の垂れが発生するため布又は空気層を設けた養生材が好ましい。

6) 目地部及びクラック部、バックアップ材等取付け



7) ポリマーセメントモルタル
プライマー塗布後荒付け



コテ押さえ



コテ押さえ

特にポリマーセメントモルタルの
場合はしごき過ぎるとエアーが出来
やすいので、注意すること。

養生



施工時期により、特に風の影響及び温度変化（夜間の冷え込み）等による影響の防止対策を考慮する必要がある。

温度管理は、練炭、ジェットヒーター等を使用し、12時間、5℃以上を保つようにする。

温度養生の際、水滴の垂れが生じたり、補修部表面に養生材が付着し、養生模様が補修部表面に生じるのでビニル製の養生材を直接モルタル補修部に使用するのは好ましくない。養生材は、布又は空気層を設けたものを選定する必要がある。

8) クラック部シーリング材充填



クラック部シーリング材充填

貫通ひび割れの場合は、バックアップ材を入れ、プライマーを塗布し乾燥確認後、シーリング材を充填する。

シーリング材によっては、乾燥収縮する材料があるので使用材料によっては、2回塗りする必要がある。



Uカット又はTカット後ブロー処理。

↓ * 状況により、水洗いも考慮する。
バックアップ材取付。

↓
マスキングテープ貼り。

↓
プライマー塗布。

↓
シーリング材充填。

9) H I G トップコート



H I G トップコート

H I G トップコートは、あくまで養生材であり、吹付等でダレない様に注意し、全体に塗布する。

10) 養生工



養生工

完了後においても、硬化時間帯によっては養生を施すことを検討する。

※写真ではビニル製品使用しているが水滴の垂れや、養生模様が補修面に付着するため、布又は空気層を設けた養生材が好ましい。

11) 目地部シーリング材充填



目地部シーリング材充填

Tカット後、ブロー処理。



バックアップ材取付。



マス킹テープ貼り。



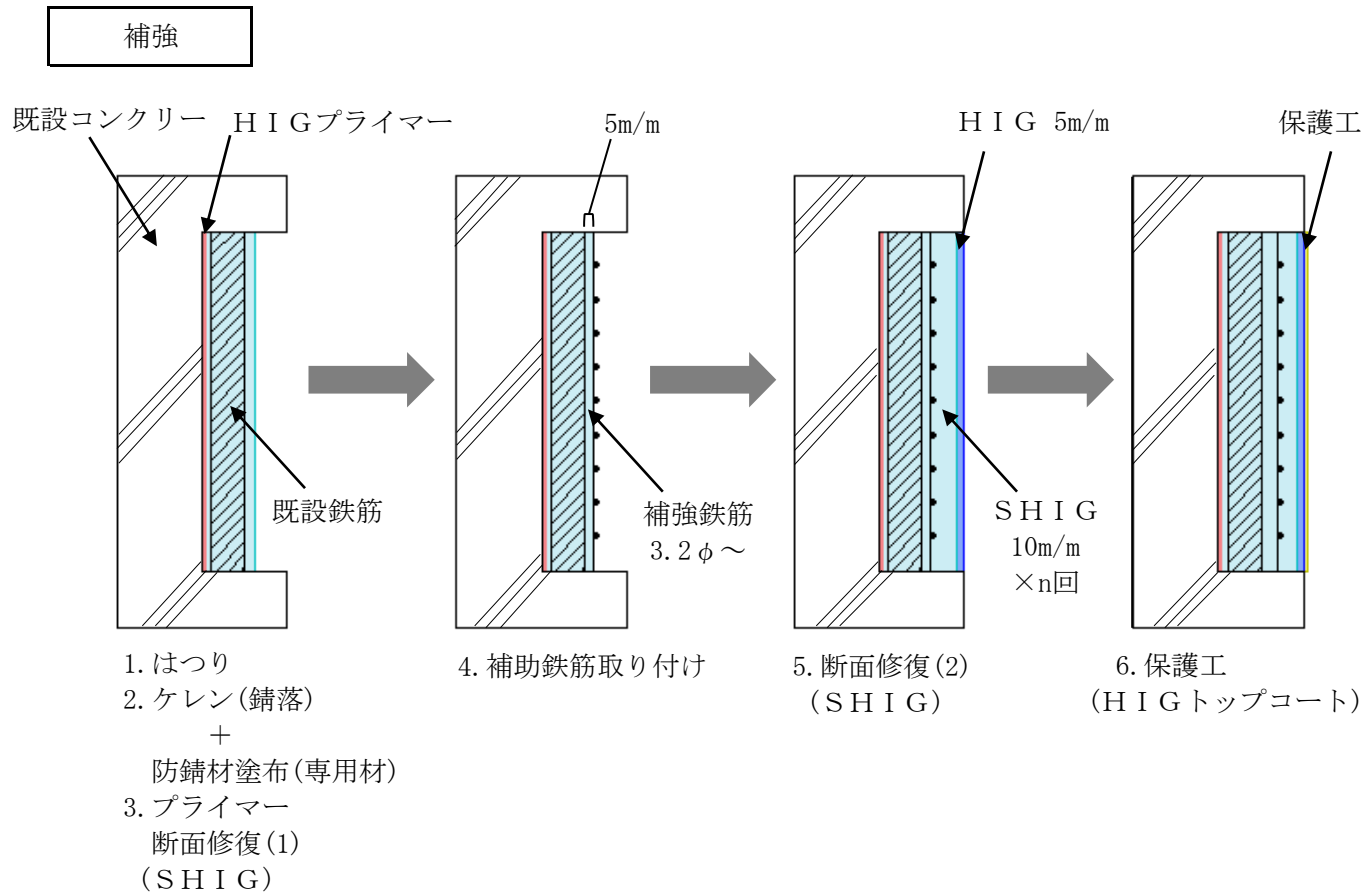
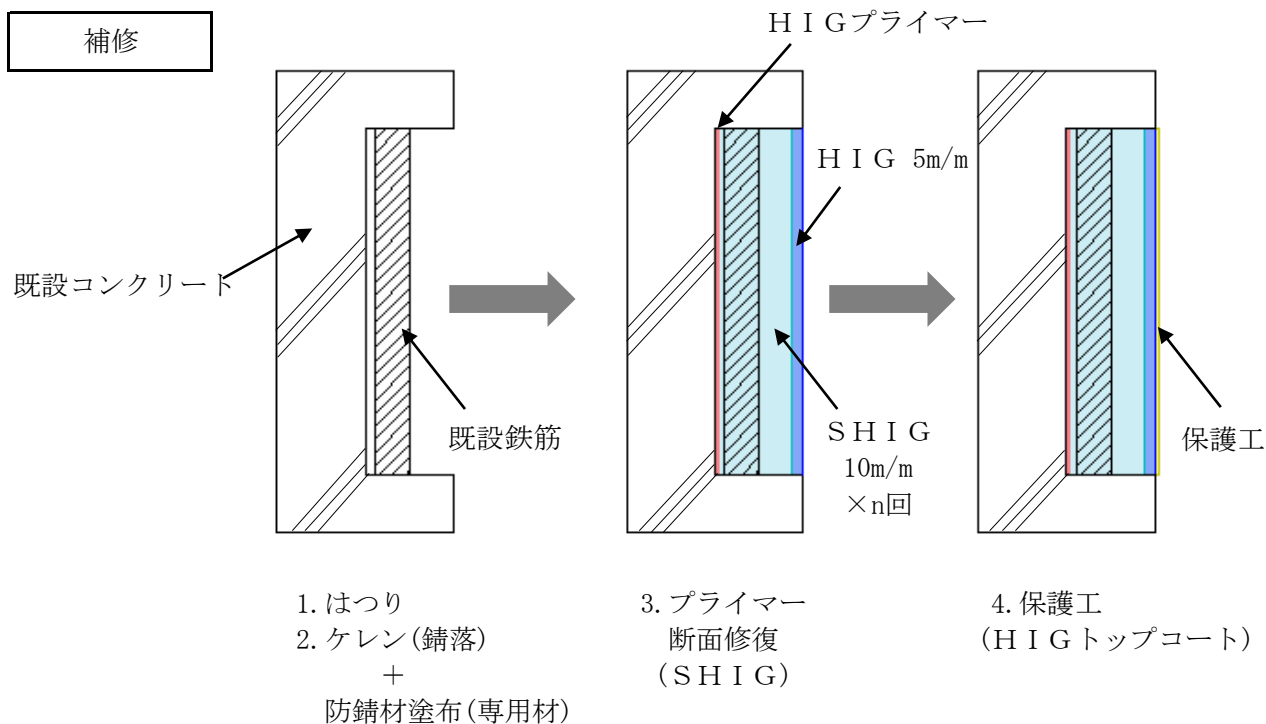
プライマー塗布。



シーリング材充填。

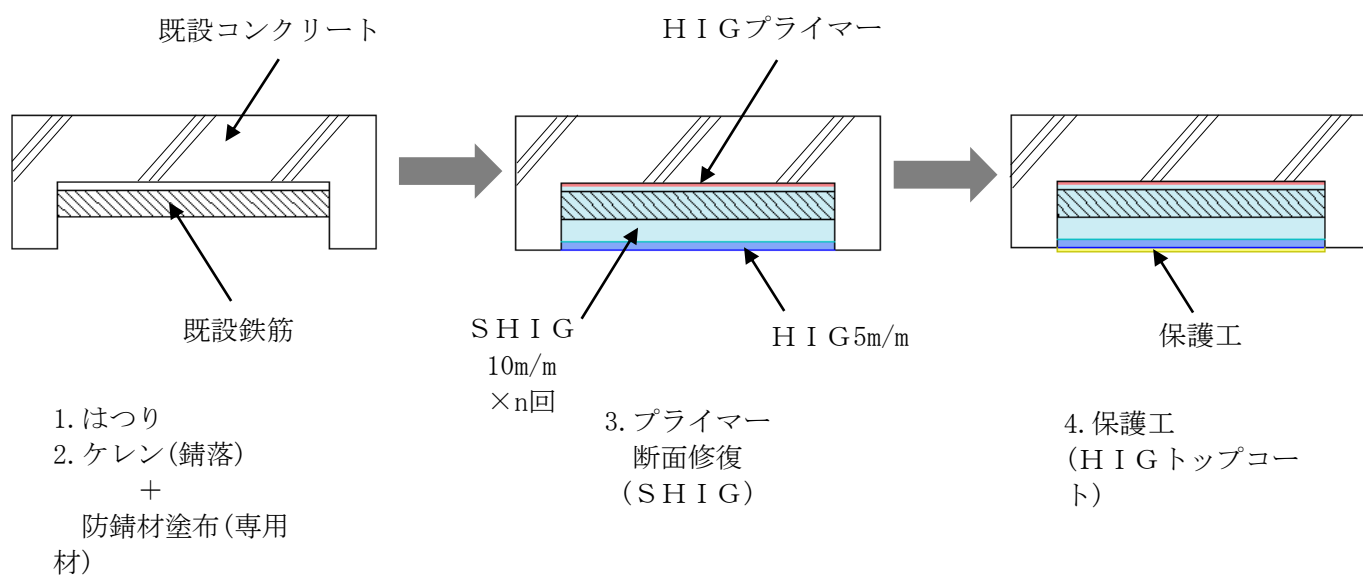
5. スーパーハイグレード工法（SHIG）標準断面図

1) 一般部の補修・補強

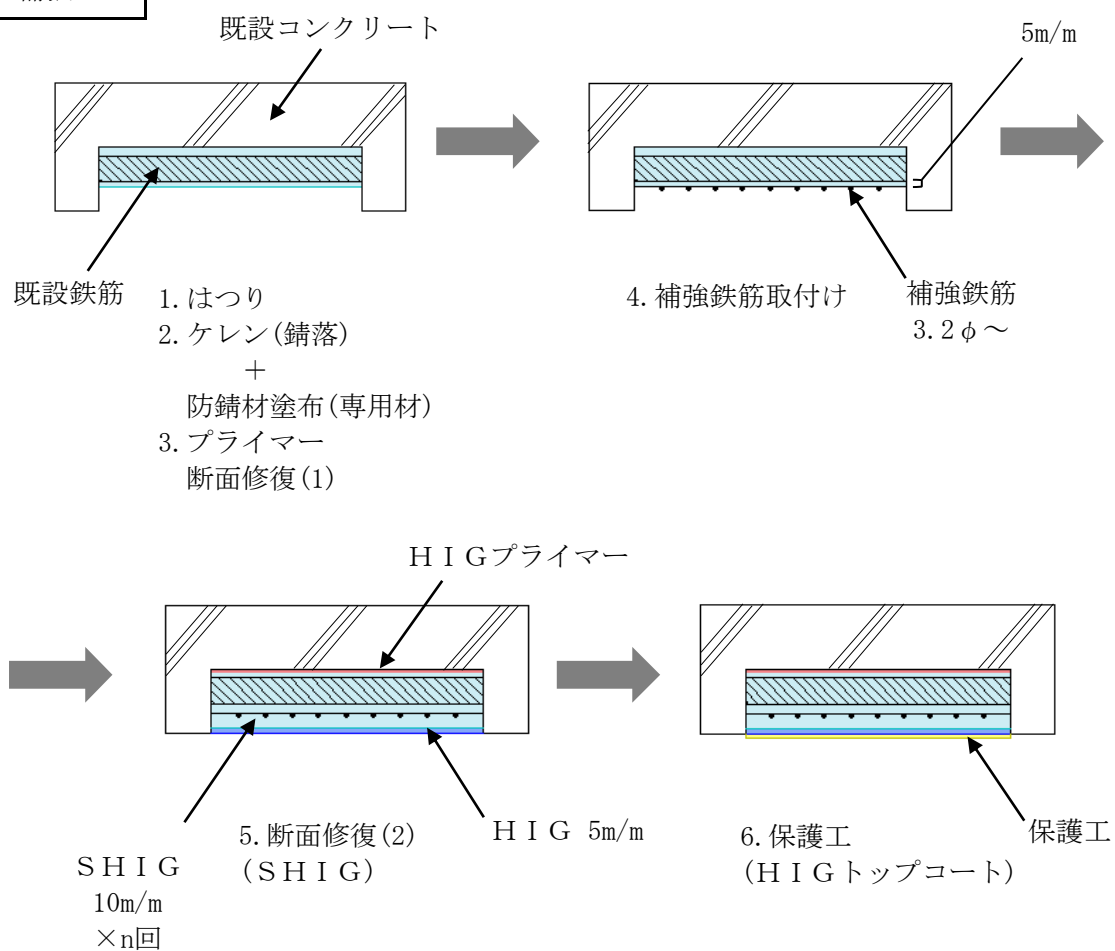


2) 床版下面の補修・補強

補修



補強



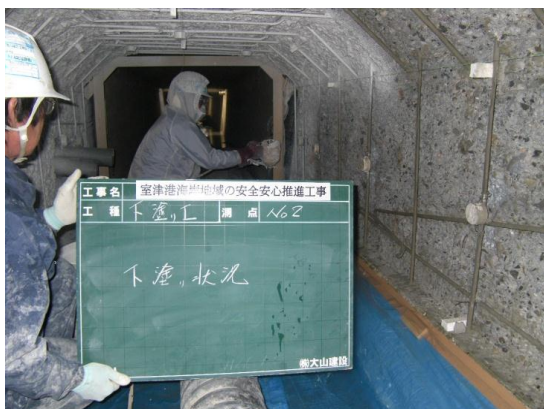
(1) 施工事例(補強)



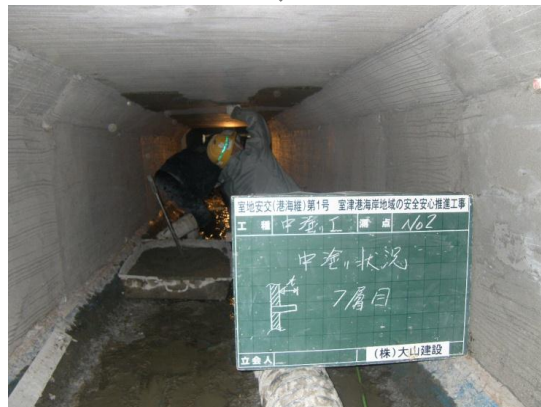
着工前



防錆処理工



H I Gプライマー



ポリマーセメントモルタル



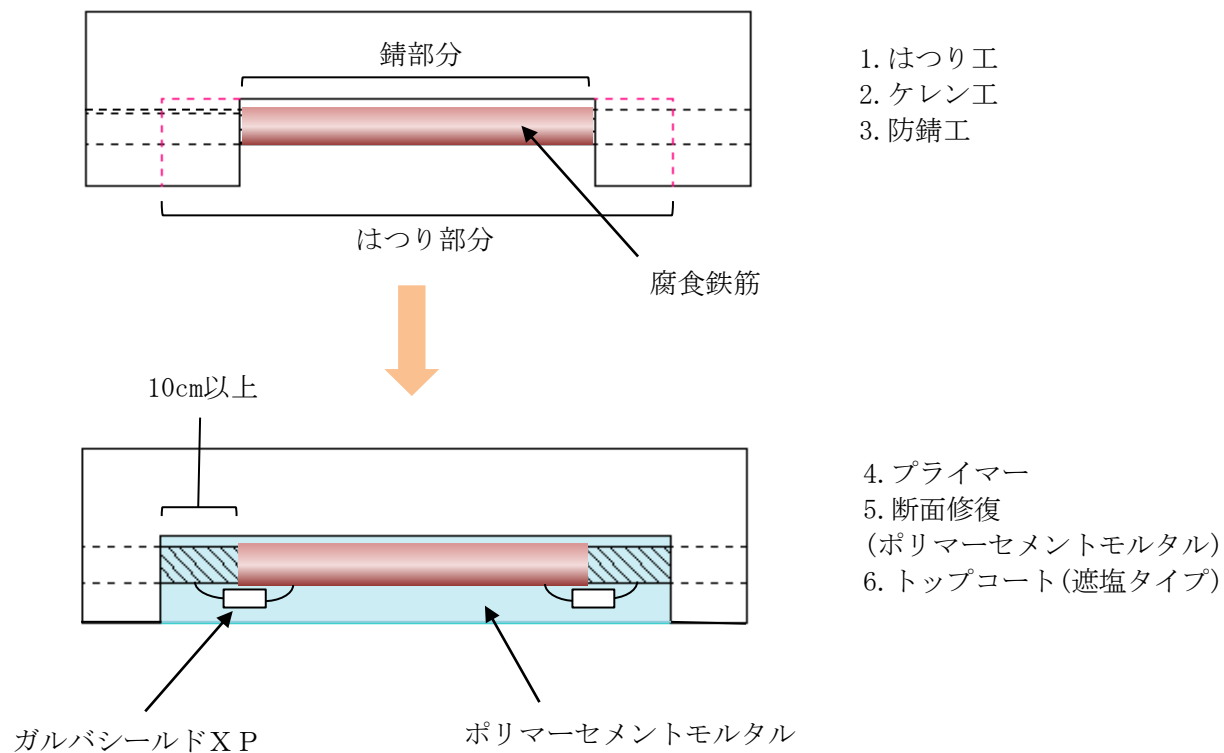
保護工



完成

3) 塩害処理

犠牲陽極処理



天井部分



天井・壁面部分

(1) 施工事例(犠牲陽極処理)



現況(1)



現況(2)



はつり工(1)



はつり工(2)



洗浄工



犠牲陽極取付け





断面修復工



断面修復工完了



保護工



完了

現場名

水路補修工出来形管理図

請負者

壁長 (SL1)	測定箇所	No.61	No.62	No.63	No.64	No.65	No.66	No.67	No.68	No.69	No.70	No.71	No.72	12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月
	番 号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
規格値 -0mm	設計値	940	900	950	940	930	930	950	830	780	730	710	700	規格値 規格値80% 規格値50% 差
規格値80% -0mm	実測値	950	905	960	945	940	940	960	840	795	740	725	710	
規格値50% -0mm	差	10	5	10	5	10	10	10	10	15	10	15	10	
壁長 (SL2)	測定箇所	No.61	No.62	No.63	No.64	No.65	No.66	No.67	No.71	No.72				12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月
	番 号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
規格値 -0mm	設計値	940	910	950	950	930	930	950	710	680				規格値 規格値80% 規格値50% 差
規格値80% -0mm	実測値	955	925	960	960	940	940	960	720	690				
規格値50% -0mm	差	15	15	10	10	10	10	10	10	10				
	測定箇所													12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月
	番 号													
規格値	設計値													規格値 規格値80% 規格値50% 差
規格値80%	実測値													
規格値50%	差													

略 図

左岸

w1

SL1

w3

w2

SL2

w4

右岸

t1

t2

【管理シート (1)】

主任監督員	監 督 員	主任技術者

使用材料搬入報告書

施 工 月 日 : 平成 年 月 日

工 事 名 :

請負会社名：

作成者：

[illegible]

【管理シート (2-1)】

主任監督員	監督員	主任技術者

施工管理記録

(下地処理・鉄筋処理・断面修復工)

施 工 月 日 : 平 成 年 月 日

工 事 名 : 工事

請負会社名： 測定者：

天候及び屋外環境		[天候] :		[温 度] :		最高		℃		最低		℃		
		[湿度] :		%		[測定時間] :		時		分				
管理種目		管理項目		施工場所 : ○○○○○○○○										
				管理結果及び処理の内容										
施工工法名		[記入例] ・下地処理・劣化部除去 ・鉄筋処理・断面修復 より選択し記入する												
施工品質管理	下地処理・劣化部除去	高圧・超高压水処理	圧力計指示値	Mpa		Mpa		Mpa						
			使用水量	ℓ/min		ℓ/min		ℓ/min						
			作業時間	min		min		min						
		表面状態	付着阻害物の有無と処置	(☐ 無 ☐ 有)		(☐ 無 ☐ 有)		(☐ 無 ☐ 有)						
			劣化部除去の良否と処置	(☐ 良 ☐ 否)		(☐ 良 ☐ 否)		(☐ 良 ☐ 否)						
			表面・外観の良・否と処置	(☐ 良 ☐ 否)		(☐ 良 ☐ 否)		(☐ 良 ☐ 否)						
			表面強度	平均値 : N/mm2 最小値 : N/mm2		平均値 : N/mm2 最小値 : N/mm2		平均値 : N/mm2 最小値 : N/mm2						
	鉄筋処理	表面状態	錆除去の良否と処置	(☐ 良 ☐ 否)		(☐ 良 ☐ 否)		(☐ 良 ☐ 否)						
			防せい材塗布の良否と処置	(☐ 良 ☐ 否)		(☐ 良 ☐ 否)		(☐ 良 ☐ 否)						
	断面修復	調配合	配合比	(☐ 良 ☐ 否)		(☐ 良 ☐ 否)		(☐ 良 ☐ 否)						
			混練時間	min		min		min						
		施工	塗布量 (kg)	所要量 :	kg		kg		kg					
				塗布量 :	kg		kg		kg					
			施工厚さ	測定時期：施工中・硬化後 mm		測定時期：施工中・硬化後 mm		測定時期：施工中・硬化後 mm						
			付着厚さ（左官工法は除く）	平均値 : N/mm2 最小値 : N/mm2		平均値 : N/mm2 最小値 : N/mm2		平均値 : N/mm2 最小値 : N/mm2						
			塗り重ねの良否	(☐ 良 ☐ 否)		(☐ 良 ☐ 否)		(☐ 良 ☐ 否)						
			圧縮強度（材齢28日）	平均値 : N/mm2 最小値 : N/mm2		平均値 : N/mm2 最小値 : N/mm2		平均値 : N/mm2 最小値 : N/mm2						
		仕上がり状態	欠陥の有無と処置	(☐ 無 ☐ 有)		(☐ 無 ☐ 有)		(☐ 無 ☐ 有)						

主任監督員	監 督 員	主任技術者

下地処理後付着力試験結果表

工 事 名 :

試 験 月 日 : 平成 年 月 日

請負会社名 :

測 定 者 :

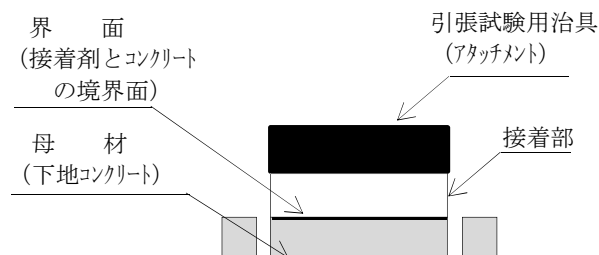
試 験 箇 所 :

立 会 者 :

右岸壁	試 験 結 果	1	2	3	4	5	平 均
	最大引張荷重T (kN)						
	付着強さ (N/m ²)						
	破 壊 面 の 位 置						
	判 定	☐ 良 ☐ 否	☐ 良 ☐ 否	☐ 良 ☐ 否	☐ 良 ☐ 否	☐ 良 ☐ 否	☐ 合 ☐ 否
底 版	試 験 結 果	1	2	3	4	5	平 均
	最大引張荷重T (kN)						
	付着強さ (N/m ²)						
	破 壊 面 の 位 置						
	判 定	☐ 良 ☐ 否	☐ 良 ☐ 否	☐ 良 ☐ 否	☐ 良 ☐ 否	☐ 良 ☐ 否	☐ 合 ☐ 否
左岸壁	試 験 結 果	1	2	3	4	5	平 均
	最大引張荷重T (kN)						
	付着強さ (N/m ²)						
	破 壊 面 の 位 置						
	判 定	☐ 良 ☐ 否	☐ 良 ☐ 否	☐ 良 ☐ 否	☐ 良 ☐ 否	☐ 良 ☐ 否	☐ 合 ☐ 否

(特記事項)

破断面の位置図



(備考)

- 試験回数は3回とする。その中で著しく異なる値が得られた場合には、試験回数を追加し、異常値を破棄する。
- 付着強さは $T=1.6$ で求める。

【管理シート (3)】

主任監督員	監 督 員	主任技術者

調査工検査

工 事 名 :

試 験 月 日 : 平成 年 月 日 記 録 者 :

請負会社名： 立会者：

[illegible]

【管理シート (4-1)】

主任監督員	監 督 員	主任技術者

ひび割れ補修工（貫通） 測定結果一覧表
(Tカット・Uカット)

工 事 名：

測 定 日 : 平成 年 月 日 測 定 者 :

請負会社名： 現場代理人：

[illegible]

【管理シート (4-1)】

主任監督員	監 督 員	主任技術者

ひび割れ補修工（非貫通） 測定結果一覧表
(Tカット・Uカット)

工 事 名：

測 定 日 : 平成 年 月 日 測 定 者 :

請負会社名： 現場代理人：

[illegible]

主任監督員	監督員	主任技術者

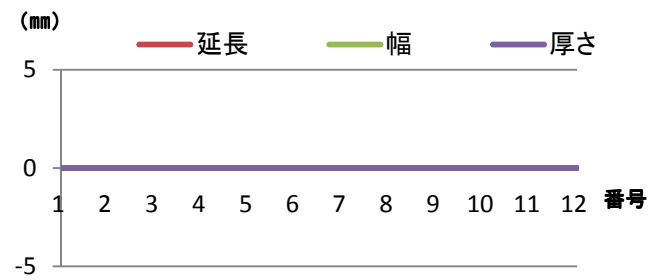
管理基準値	規格値B	測定単位
+ 2 - 2	+ 3 - 3	mm

請負会社名： 現場代理人：

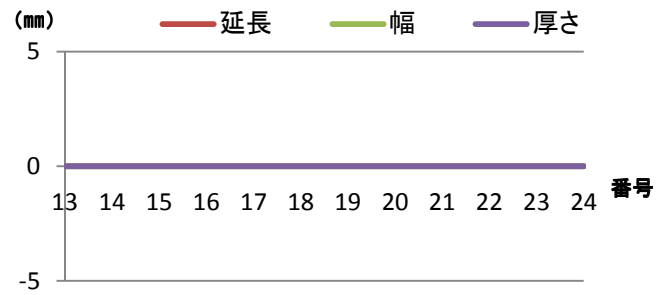
番号	月	日	測 点			延長 (m)					幅 (mm)				厚さ (mm)						
						設計値 (C)	実測値 (D)	差異 (D)-(C)	管理基準値との 差 F=A-E		設計値 (C)	実測値 (D)	差異 (D)-(C)	管理基準値との 差 F=A-E		設計値 (C)	実測値 (D)	差異 (D)-(C)	管理基準値との差 F=A-E		
1	月	日	ユニット 2	パレル 1	左壁				+	—				+	—				+	—	
2					底版									+	—				+	—	
3					右壁									+	—				+	—	
4	月	日	ユニット	パレル	左壁				+	—				+	—				+	—	
5					底版									+	—				+	—	
6					右壁									+	—				+	—	
7	月	日	ユニット	パレル	左壁				+	—				+	—				+	—	
8					底版									+	—				+	—	
9					右壁									+	—				+	—	
10	月	日	ユニット	パレル	左壁				+	—				+	—				+	—	
11					底版									+	—				+	—	
12					右壁									+	—				+	—	
13	月	日	ユニット	パレル	左壁				+	—				+	—				+	—	
14					底版									+	—				+	—	
15					右壁									+	—				+	—	
16	月	日	ユニット	パレル	左壁				+	—				+	—				+	—	
17					底版									+	—				+	—	
18					右壁									+	—				+	—	
19	月	日	ユニット	パレル	左壁				+	—				+	—				+	—	
20					底版									+	—				+	—	
21					右壁									+	—				+	—	
22	月	日	ユニット	パレル	左壁				+	—				+	—				+	—	
23					底版									+	—				+	—	
24					右壁									+	—				+	—	
25	月	日	ユニット	パレル	左壁				+	—				+	—				+	—	
26					底版									+	—				+	—	
27					右壁									+	—				+	—	
28	月	日	ユニット	パレル	左壁				+	—				+	—				+	—	
29					底版									+	—				+	—	
30					右壁									+	—				+	—	
31	月	日	ユニット	パレル	左壁				+	—				+	—				+	—	
32					底版									+	—				+	—	
33					右壁									+	—				+	—	
34	月	日	ユニット	パレル	左壁				+	—				+	—				+	—	
35					底版									+	—				+	—	
36					右壁									+	—				+	—	

「 管 理 図 」 設計値との差

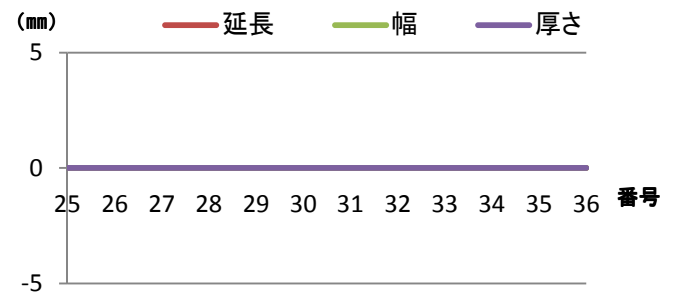
番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
延長												
幅												
厚さ												



番号	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
延長												
幅												
厚さ												



番号	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
延長												
幅												
厚さ												



【管理シート (4-3)】

主任監督員	監 督 員	主任技術者

断面修復工（躯体）測定結果一覧表

工 事 名 : ○○○

測 定 日 : 平成 24 年 ○ 月 ○ 日

測定者：

請負会社名：○○○

現場代理人：

[illegible]

【管理シート (4-3)】

主任監督員	監 督 員	主任技術者

断面修復工（ジャンカ部）測定結果一覧表

工 事 名 :

測定日：平成 年 月 日 測定者：

請負会社名： 現場代理人：

[illegible]

主任監督員	監 督 員	主任技術者

目地補修工検査
(Tカット工 ・ Uカット工)

工 事 名 :

検 査 月 日 : 平成 年 月 日

請負会社名 :

測 定 者 :

検査箇所は測点内で1箇所を標準とする。

立 会 者 :

	検査. NO	ビット径 φ	カット深さ mm	カット幅 mm	良 ・ 否
目 地 補 修	M				(良 ・ 否)
	M				(良 ・ 否)
					(良 ・ 否)
					(良 ・ 否)
					(良 ・ 否)
					(良 ・ 否)
					(良 ・ 否)
					(良 ・ 否)
					(良 ・ 否)
					(良 ・ 否)
					(良 ・ 否)
					(良 ・ 否)
					(良 ・ 否)
					(良 ・ 否)
					(良 ・ 否)
					(良 ・ 否)
					(良 ・ 否)
					(良 ・ 否)
					(良 ・ 否)
					(良 ・ 否)
※検査. NOの先頭に ひび割れの場合はH. 目地の場合はM記号を明記する。					

主任監督員	監 督 員	主任技術者

ひび割れ補修工検査 (Tカット工 ・ Uカット工)

工 事 名 :

検 査 月 日 : 平成 年 月 日

請 負 会 社 名 :

測 定 者 :

検査箇所は測点内で1箇所を標準とする。

立 会 者 :

	検査. NO	ビット径 φ	カット深さ mm	カット幅 mm	良 ・ 否
ひび割れ補修	H				(良 ・ 否)
	H				(良 ・ 否)
					(良 ・ 否)
					(良 ・ 否)
					(良 ・ 否)
					(良 ・ 否)
					(良 ・ 否)
					(良 ・ 否)
					(良 ・ 否)
					(良 ・ 否)
					(良 ・ 否)
					(良 ・ 否)
					(良 ・ 否)
					(良 ・ 否)
					(良 ・ 否)
					(良 ・ 否)
					(良 ・ 否)
					(良 ・ 否)
					(良 ・ 否)
					(良 ・ 否)
※検査. NOの先頭に ひび割れの場合はH. 目地の場合はM記号を明記する。					

主任監督員	監 督 員	主任技術者

施 工 管 理 記 録
(欠損および断面修復工の測定)

工 事 名 :

測 定 日 : 平成 年 月 日 測 定 者 :

請負会社名 : 立 会 者 :

		結 果			
工 種					
材 料 の 種 類					
材 料 の 設 計 厚 さ (mm)					
測定箇所（対象範囲）					
No.	測定位置	測定幅D (mm)	測定高さH (mm)	測定深さD (mm)	摘 要
1		mm	mm	mm	
2		mm	mm	mm	
3		mm	mm	mm	
4		mm	mm	mm	
5		mm	mm	mm	
6		mm	mm	mm	
7		mm	mm	mm	
8		mm	mm	mm	
9		mm	mm	mm	
10		mm	mm	mm	
11		mm	mm	mm	
12		mm	mm	mm	
13		mm	mm	mm	
14		mm	mm	mm	
15		mm	mm	mm	
16		mm	mm	mm	
平 均					
判 定					合 ・ 否

【管理シート（6-2）】

主任監督員	監 督 員	主任技術者

塗 厚 管 理 記 録

工 事 名：

測 定 日：平成 年 月 日 測 定 者：

請負会社名： 立 会 者：

		結 果			
工 種		表 面 被 覆 工			
材 料 の 種 類					
材料の設計厚さ (mm) (設計厚+ 不陸厚)					
測定箇所 (対象範囲)					
No.	測定位置	左側壁	底板	右側壁	摘 要 側壁の不陸厚=3mm・底板の不陸厚=5mm
1	設計値 実測値 差 異				
2	設計値 実測値 差 異				
3	設計値 実測値 差 異				
4	設計値 実測値 差 異				
5	設計値 実測値 差 異				
6	設計値 実測値 差 異				
7	設計値 実測値 差 異				
8	設計値 実測値 差 異				
9	設計値 実測値 差 異				
10	設計値 実測値 差 異				
11	設計値 実測値 差 異				
平 均					
判 定					合 ・ 否

主任監督員	監 督 員	主任技術者

表面被覆後付着力試験結果表

1週（7日）自主検査

工 事 名：

試 験 月 日： 平成 年 月 日

請負会社名：

測 定 者：

試 験 箇 所：

立 会 者：

右岸壁	試 験 結 果	1	2	3	4	5	平 均
	最大引張荷重T (kN)						
	付着強さ (N/m ²)						
	破 壊 面 の 位 置						
	判 定	良 ・ 否	良 ・ 否	良 ・ 否	良 ・ 否	良 ・ 否	合 ・ 否
底 版	試 験 結 果	1	2	3	4	5	平 均
	最大引張荷重T (kN)						
	付着強さ (N/m ²)						
	破 壊 面 の 位 置						
	判 定	良 ・ 否	良 ・ 否	良 ・ 否	良 ・ 否	良 ・ 否	合 ・ 否
左岸壁	試 験 結 果	1	2	3	4	5	平 均
	最大引張荷重T (kN)						
	付着強さ (N/m ²)						
	破 壊 面 の 位 置						
	判 定	良 ・ 否	良 ・ 否	良 ・ 否	良 ・ 否	良 ・ 否	合 ・ 否

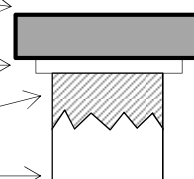
(特記事項)

引張用治具（アタッチメント）

(1) 治具取付接着剤部

表面被覆材

母材コンクリート



(備考)

1. 試験回数は3回とする。その中で著しく異なる値が得られた場合には、試験回数を追加し、異常値を破棄する。

主任監督員	監 督 員	主任技術者

表面被覆後付着力試験結果表

4週（28日）

工 事 名：

試 験 月 日：平成 年 月 日

請負会社名：

測 定 者：

試 験 箇 所：

立 会 者：

右岸壁	試 験 結 果	1	2	3	4	5	平 均
	最大引張荷重T (kN)						
	付着強さ (N/m ²)						
	破 壊 面 の 位 置						
	判 定	良 ・ 否	良 ・ 否	良 ・ 否	良 ・ 否	良 ・ 否	合 ・ 否
底 版	試 験 結 果	1	2	3	4	5	平 均
	最大引張荷重T (kN)						
	付着強さ (N/m ²)						
	破 壊 面 の 位 置						
	判 定	良 ・ 否	良 ・ 否	良 ・ 否	良 ・ 否	良 ・ 否	合 ・ 否
左岸壁	試 験 結 果	1	2	3	4	5	平 均
	最大引張荷重T (kN)						
	付着強さ (N/m ²)						
	破 壊 面 の 位 置						
	判 定	良 ・ 否	良 ・ 否	良 ・ 否	良 ・ 否	良 ・ 否	合 ・ 否

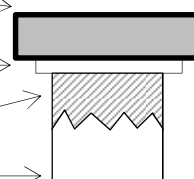
(特記事項)

引張用治具 (アタッチメント)

(1) 治具取付接着剤部

表面被覆材

母材コンクリート



(備考)

1. 試験回数は3回とする。その中で著しく異なる値が得られた場合には、試験回数を追加し、異常値を破棄する。

主任監督員	監督員	主任技術者

(圧縮強度) 1週 (7日) 自主検査

$$\text{N/mm}^2$$
[illegible]

【管理シート (8-1)】

主任監督員	監 督 員	主任技術者

品質管理記録

(圧縮強度) 4週 (28日)

工 事 名 :

試 験 月 日 : 平成 年 月 日

請負会社名：

測定者：

種 別：

規格値：4週強度

$$\text{N/mm}^2$$
[illegible]

【管理シート (8-2)】

主任監督員	監 督 員	主任技術者

品質管理記錄

(曲げ強度) 1週 (7日) 自主検査

工 事 名：

試 験 月 日 : 平成 年 月 日

請負会社名：

測定者：

種 別：

規格値：1週強度

$$\text{N/mm}^2$$
[illegible]

【管理シート (8-2)】

主任監督員	監 督 員	主任技術者

品質管理記録

(曲げ強度) 4週 (28日)

工 事 名 :

試 験 月 日 : 平成 年 月 日

請負会社名：

測定者：

種 別：

規格値：4週強度

$$\text{N/mm}^2$$
[illegible]

【管理シート (9)】

主任監督員	監 督 員	主任技術者

施工管理記録（表面被覆工法）

施 工 月 日 : 平成 年 月 日

工 事 名 :

請負会社名：

測定者：

天候及び 屋外環境	[天 候] :		[温 度] :		最高	℃	最低	℃						
	[湿 度] :		%	[測定時間] :		時	分							
管理種目	管理項目		管理結果及び処理の内容 ○○○○○○○											
			施工場所 : ○○○○○○○											
施工工程名														
施工環境	温 度	施工中	①	℃	時	分	①	℃	時	分	①	℃	時	分
			②	℃	時	分	②	℃	時	分	②	℃	時	分
			③	℃	時	分	③	℃	時	分	③	℃	時	分
	湿 度	施工中	①	%	時	分	①	%	時	分	①	%	時	分
			②	%	時	分	②	%	時	分	②	%	時	分
			③	%	時	分	③	%	時	分	③	%	時	分
	処置・対策内容 (換気、除湿、加湿等)													
	結露状況点検結果													
	施工 品質 管理	コンクリートの表面状態				%			%			%		
		塗料の配合量 [主剤：硬化剤] (kg)				:			:			:		
練り混ぜ		攪拌機の種類	・自動式 ・ハンドミキサー		・自動式 ・ハンドミキサー		・自動式 ・ハンドミキサー							
		攪拌時間	分		分		分							
施工		塗布量 (kg)	所要量:	kg		所要量:	kg		所要量:	kg				
			塗布量:	kg		塗布量:	kg		塗布量:	kg				
		施工厚さ	測定時期：施工中・硬化後 mm		測定時期：施工中・硬化後 mm		測定時期：施工中・硬化後 mm							
仕上がり状態		欠陥の有 と処理	無 ・ 有 ()		無 ・ 有 ()		無 ・ 有 ()							
特記事項	安全管理 その他													

主任監督員	監 督 員	主任技術者

完 了 検 査

工 事 名：

検 査 月 日：平成 年 月 日 測 定 者：

請 負 会 社 名： 立 会 者：

検査項目	検 査 結 果
目 視 検 査 結 果 (ひび割れ処理)	ひ び 割 れ 処 理 (適切 ・ 再処理が必要 箇所)
	再処理の場合の位置等
目 視 検 査 結 果 (目 地 処 理)	目 地 処 理 (適切 ・ 再処理が必要 箇所)
	再処理の場合の位置等
目 視 検 査 結 果 (剥れ及び未処理)	は が れ 等 (適切 ・ 再処理が必要 箇所)
	再処理の場合の位置等
打 診 検 査 結 果 浮 き 確 認	浮 き 等 (適切 ・ 再処理が必要 箇所)
	再処理の場合の位置等
そ の 他	管理シートチェック (適切 ・ 加筆が必要) シートNo. ()